



■ 総会報告 事務局 田代 周

10月25日(土)、東京三田の「友愛会館」において第24回総会が開催されました。参加者は会員30名、来賓は労組執行部から3名でした。

総会議長に(神奈川)齊藤五郎氏が選出されて議事進行、報告及び議案はすべて承認されました。

【報告】

報告1 令和7年度 活動報告

報告2 令和7年度 会計収支決算報告

報告3 令和7年度 会計監査報告

【議案】

第1号議案 令和8年度 活動方針に関する件

第2号議案 令和8年度 予算案に関する件

第3号議案 会の名称を通称のみ使用する件

▶ 上の写真は報告1の令和7年度活動報告を行っているところで、年間12回の事業企画に対し延150名の参加があった旨を報告しました。

▶ 第1号議案の令和8年度活動方針の中で具体的に取り組むべき最も重要な項目は「組織の拡大」です。会員の高齢化とともに会員減少が進んでおり、前年度比会員数の増減は次の通りです。

2025.08.01	会員数	増減	<70歳	86歳≤
神奈川支部	84	-3	2	12
東京支部	29	1	3	5
千葉支部	24	-2	1	3
茨城支部	27	-6	3	0
群馬支部・他	8	1	3	0
総数	172	-9	12	20

特に70歳未満のヤングシニアの加入促進のために、労組本部の協力を得ながら一人でも多くの「見込み客」へのアプローチを高めていきます。

▶ 第3号議案の提案内容は、会の正式名称「日本ビクター・JVCケンウッド退職者の会」を今後使用せず、通称として使ってきた「JVCKWシニアクラブ」のみにするというものです。

シニアクラブは2002年にスタートした時点から「退職者の会」を名乗ってきました。しかし、社会環境が大きく変わり、現在、年金支給開始年齢の先延ばしに伴う雇用延長や人々の健康志向の高まりで社会活動への参加意欲を持つ人が増え、「退職者」ではないシニアが多くなっています。

第1号議案にも関連し、会の名称から「退職者」の看板外しをするほうが良いと考えました。

ただし、名称変更には序文を含め会の規約改定が伴うため今回そこまで踏み込んではいません。

名乗るときは「JVC ケンウッドシニアクラブ」文字で書くときは「JVCKWシニアクラブ」として、現段階では正式名称は残るが使わない事になります。

◆ 総会議事終了後、シニアクラブ役員の金子清一さんから「最近の特殊詐欺の手口について」紹介がありました。金子さんは現在生保の会社に勤め、顧客との接触の中で被害にあった人、あいそうな場面を何度も見てきているとのこと。



SNS が便利な情報伝達手段となる中、それを悪用する輩が言葉巧みに近づき、騙される人が多いようです。

かつての「オレオレ詐欺」よりはるかに巧妙なアプローチを仕掛けてきています。

家族との会話やシニアクラブなどの仲間とのつながりを保ち日頃から相談できる相手を持つことが大切です。



■ 高市内閣発足

10月21日(火)、国会において第104代総理大臣に高市早苗氏が指名されました。その瞬間、テレビに映し出された画面に高市氏のすぐ後ろに座る菅元総理の顔も見えましたが、小泉進次郎氏の落選でがっかりしたかのような顔が印象的でした。



内閣が組閣されると「ケちな内閣」とケチをつけたり、所信表明演説でヤジを飛ばして演説妨害をする議員もいて、昨今の国会議員のレベルの低さにあきればかりですが、内閣支持率は70%を超えており、国民の期待は高まっていると思います。

公明党が与党離脱して、新たに日本維新の会と連立政権を組むことになりましたが少数与党であることは変わらず、これからの国会運営には苦勞が伴うことと思います。本人は「人手不足の中、皆には働いて働いて働いてもらう」と言っていました。

所信表明の中で最初に述べられたのが「強い経済の実現」です。そして外交面では「世界の真ん中で咲き誇る日本」をうたいました。言葉が抽象的ですが、要は「世界をリードする日本」と読むべきなのでしょう。総理就任直後からトランプ大統領との日米協議やASEAN、APECの国際会議が続ぎ、各国首脳との顔合わせの場は総理としての考えや日本の立場を示す絶好の機会となった筈です。

高市氏は若い世代から多くの支持を得ているのですが、少子高齢化社会における若者世代への対応も含め国内の基盤強化が大切です。

連立を組む「維新」は国会議員定数削減を求めています。レベルの低い議員にはさっさと去ってもらい、国会が真の討議の場となり、「国民の豊かさ、安全・安心」が担保される国づくりに期待します。

昨今、世界で「自国ファースト」が強く叫ばれるようになっています。国家の運営にあたり「自国ファースト」は当然です。「俺だけファースト」の風潮が高まっていることが問題なのです。

民主主義社会ではマイノリティーの意見にも耳を傾け、他人を理由なく排除するようなことは慎まなければなりません。「自国ファースト」が「俺だけ・・・」となってしまうのはならないのです。一部からは「右派」とか「タカ派」などと呼ばれているかのような新政権ですが、印象だけでは無く、結果で判断することが大切です。今後の政権運営を十分に注視していきましょう。

■ 夏から一気に冬へ

先月号で今年の夏の暑さを述べていましたが、一か月足らずで季節は一気に冬へと突入してしまったかのようです。



地球温暖化の影響で「4季の日本」から「2季の日本」へと変わってきているとのこと。

温暖化なら「冬が短く秋がまだ続くはずでは」と思うのですが、どうもそうでは無いようです。

理由はよくわかりませんが、北極も温暖化の影響で、かえって北風の吹き出しが早くなったとか。北風が吹けば人はまさに冬を感じるようになります。

冬用衣服への切り替えが追いつきません。

■ 熊災害

連日のように熊による被害が報道されています。

今年の夏の猛暑で山のドングリの生育が悪く餌が少ない一方で、町に出れば畑の作物、庭のカキの実、挙句に人が捨てたごみ等々、食べ物に事欠かない状況であれば熊にしてみるとそこは食べ放題のバイキング会場のようなもの。人までが餌食となってしまう恐ろしい状況になっています。

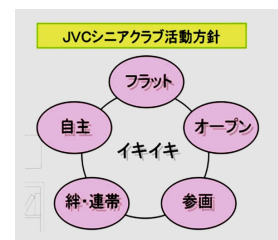
北海道や東北地方はもとより、東京奥多摩にも熊の出没がみられるとのこと。

6年ほど前になりますが、シニアクラブ企画で奥多摩でキャンプをしました。夜遅くまで杯を交わし、外に食べ物を残したままテントで寝ていたら、夜中にクマ出沒!? 当時そんなこと考えもしないことでしたが、今まさにそれが現実となってしまうかと思うと居た堪まりません。 <https://youtu.be/oGx6kSnPfOI>

作家吉村昭の著書に「熊嵐」があります。大正時代、北海道の開拓村で実際にあった巨大な人食い熊との闘いの話です。映画化されてネットでも見るができます。藁で作られた粗末な家の壁を破って熊が出現。映画「ゴジラ」の出現場面よりはるかにリアル感があって恐ろしく感じてしまいます。

■ 事務局から

先日の総会では右図の活動方針を提示しました。この図は数年前、何度か紹介した経緯がありますが久しぶりの再登場です。



要は、「みんな一緒にシニアクラブ活動を盛り上げていこう」というものです。HPには会員の皆様からの投稿・ご提案を掲載する「お便り欄」もあります。行事企画も順次掲載されています。皆様の積極的な参加を期待しています。

事務局長 田代 周